

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K01870

研究課題名（和文）モビリティ・イノベーションにおける組織間のネットワーク構造の動的分析

研究課題名（英文）Dynamic analysis of inter-organizational network structure in mobility innovation

研究代表者

伊佐田 文彦（Isada, Fumihiko）

関西大学・総合情報学部・教授

研究者番号：80387646

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、今日の自動車関連業界の技術環境等の変化に伴って、組織の境界や組織間関係がどのように変化しているのかを実証的に分析した。分析手法として、関連データを、多年度にわたり、かつ国際的に収集し、分析用の統合的なデータベースを構築し、社会ネットワーク分析の手法などを用いて分析した。分析の結果、組織間のネットワークに構造的な変化が観測され、また技術領域や地域によって多様であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

諸先行研究において、自動運転車やコネクテッド・カーなどといった自動車業界の技術変化が、既存の組織間関係に与える影響の多寡については、必ずしも結論は一致しておらず、また分析対象や方法として事例研究によるものが多い。本研究では、全世界の自動車メーカーおよび関連組織間の関係性について、統合的かつ実証的に分析し、その変化を明らかにしたことが、主要な学術的あるいは実践的な意義である。

研究成果の概要（英文）：This study empirically analyzed how organizational boundaries and inter-organizational relationships have changed with changes in the technological and other environments of today's automotive-related industries. The analysis method involved collecting relevant data over a number of years and internationally, building an integrated database for analysis, and analyzing it using methods such as social network analysis. The analysis revealed that structural changes were observed in the inter-organizational networks, and that they varied by technological area and region.

研究分野：経営学

キーワード：組織間関係 社会ネットワーク分析

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

諸先行研究において、たとえばインテグラルかモジュラーかといった製品や業界構造の違いが、垂直統合か水平分業かといった組織間関係の選択と密接に関係していることが指摘されている。また、系列企業やプラットフォーム企業などといった組織間関係の違いが、当該企業の競争優位性や、関連企業全体、いわゆるエコシステム(事業生態系)の成長性などに強い影響を与えていることも指摘されている。自動車の製品や産業構造については、著名な Clark and Fujimoto (1991) 等をはじめとした多様な研究業績があり、今日のモビリティ・イノベーションについても、須田(2019)など産官学の様々な主体から研究発表がなされている。

一方で、100年に一度ともいわれるような大きな産業構造の転換期を迎えている自動車産業において、これから製品や業界の構造がどのように変化し、組織間のネットワークがどのように変化し、その中核となるプレーヤーがどのように変化していくのか、必ずしも定説はなかった。たとえば、ある先行研究においては、自動車産業では、電動化、自動運転、カー・シェアリング等といった種々の製品や産業構造の変化が進んでおり、それに伴い、これまでコンピュータ業界等が経験してきた構造変化が自動車業界にも起こることが指摘されていた。それはたとえば、製品構造のオープン化やモジュラー化、業界構造の水平分業・レイヤー化、競争優位の源泉の変化によるプラットフォーム企業の成長と統合型企業の衰退といった、それぞれ関連しつつ複合的な変化の進行である。一方で、別の先行研究においては、自動車とコンピュータとの製品特性の違いに基づき、自動車産業は必ずしもコンピュータ産業のような業界構造にはならないという指摘されていた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、今日の自動車および関連産業における業界構造の変化に伴って、組織の境界や組織間関係がどのように変化しているのかを、実証的かつ定量的に分析を試みることである。そのため、自動車産業や関連産業における業界構造や組織間関係について、日々の実際の情報を蓄積し、その変化を時系列に分析し、因果関係を動的に検証する。そして、自動車業界の業界構造や企業間ネットワークについて、他業界との差異の有無やその要因を、既存理論もしくはその拡張によって考察し、学術的な貢献をする。また、日本の基幹産業である自動車産業が健全に成長しうる組織間関係を示すことで、実務上のインプリケーションを提供する。

マクロレベルの分析の目標として、様々な関連する業界間の関係性や、業界内の階層構造を明らかにする。業界の階層構造が現状とどう変化しているのかを、実際のデータから帰納的に明らかにし、たとえば、自動車の製品構造がどの程度オープン化し、モジュラー化しているのか、ドミナントデザインはどのように変化しているのか、業界全体のバリューチェーンはどう変わっているのか、また各企業の事業領域がどのように変化しているのか、等々を分析する。

また、ミクロレベルの分析の目標として、個々の企業について、企業ドメインの範囲、組織間ネットワーク上の位置取り、関係先企業との紐帯の強さ等、そしてそれらの戦略的意図を探索する。具体的には、個々の企業の垂直統合度や水平分業の度合いを測定し、組織間関係においてプラットフォーム・リーダーシップ企業、ニッチ企業、系列取引企業等といった位置取りを明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究においては、多方面からデータを収集し、業界全体の情報を集積したデータベースを構築して、定量的な分析を行う。データベースの構築や分析には、社会ネットワーク分析の手法やテキストマイニングの技法を利用する。社会ネットワーク分析の手法によって様々なネットワークの構造や各ノードの位置取りなどの情報を求め、組織間関係性を定量的に分析する。

モビリティ・イノベーションの関連産業は多様であり、業界横断的な幅広いデータの収集が必要である。また日々変化する状況を解釈するには、時々の情報を逐次分析し続けることが望ましい。さらに、欧米や中国、アジア諸国等において、それぞれの経営環境等も反映しつつ、多様な新技術や新サービスが次々に生み出されているため、国際比較が重要である。そこで本研究では、日々の新しい情報を、国際的に収集しうる元データとして、主に世界各国の新聞記事情報を利用する。様々な新聞記事から組織間関係に関する各種の情報をテキストマイニングによって抽出し、分析用データベースを構築する。新聞記事にも情報の妥当性の問題はあるが、企業間の連携といったインバスターリレーションズ等の観点で重要な情報は網羅され易く、また多様で多国籍な情報源を利用することで補完されうると考えられる。

## 4. 研究成果

研究の過程として、まず自動車業界の全体の分析を行い、次に、様々な技術領域ごとに細分化して進めてきた。

### (1) 全体傾向の分析

まず、自動車メーカーのパートナーシップに関するデータを元に分析を行った。分析に必要なパートナーシップに関するデータは、FactSet社のFactSet Supply Chain Relationshipsデータベースより入手した。抽出する企業の候補は、自動車産業専門調査会社であるFourin社が発行している産業年鑑を参照し、世界の自動車メーカーをリストアップしたうえで、FactSet Supply Chain Relationshipsデータベースを検索し、データの存在していた上位100社のデータを入手した。FactSet Supply Chain Relationshipsデータベースからは、自動車メーカー、パートナー企業の企業名の他に、それぞれのpartnership type および industry 区分に関する情報を入手した。Industry区分は、自動車メーカーがどの程度CASE(Connected、Autonomous/Automated、Shared、Electric)に関するパートナー企業と連携しているのかを測定するために用いた。そして、各自動車メーカーのパートナーシップ全体に占めるCASE関連の比率を計算した。分析方法として、まず組織間のパートナーシップのネットワーク構造を、社会ネットワーク分析の手法を援用して定量的に分析した。そして、CASEに関連するパートナーシップの比率を目的変数とし、各ネットワーク指標を説明変数として、回帰分析を行った。

分析の結果、CASE化が進んでいる企業程、パートナーシップを広げ、多様性を増していた。一方で、組織間関係の水平分業化、プラットフォーム化の傾向と、CASE化の進んでいる程度との間には有意な関係性が観測されなかった。また、事例研究として、全自動車メーカーの内、CASE化比率の最も高かった2社と、最も低かった2社を選択し、それぞれの企業のネットワーク指標を抽出したところ、CASE化比率の高かったのは、新興の電気自動車メーカーであり、自社を中心としてパートナーシップのネットワークを構築しており、ネットワーク上のプラットフォームとしてのポジションにあった。一方で、CASE化比率の低い従来技術型の自動車メーカーは、比較的限られた少数の企業と閉じたネットワークを形成していた。考察として、組織間関係が変化しつつあるものの、技術領域等によって様ではないことが考察された。

## (2)自動運転領域の分析

次に、自動運転車へと変化する自動車業界において、どのような企業が成長しているのか、その組織間ネットワークの特徴を実証的に分析した。データの収集源として、本調査では新聞記事と企業のプレスリリースのデータを利用した。具体的には、米国LexisNexis社が提供する、Lexis Advanceデータベースを利用した。Lexis Advanceによって、The New York Times、Los Angeles Times、Le Mondeなどをはじめとした、全世界の有力紙の新聞記事について、全文検索および閲覧が可能である。そして、テキストマイニングの手法を援用して、データクリーニングを行い、組織間関係のデータを収集した。2015年から2019年までの記事から、20,063件の組織間関係データが抽出され、それらについて、社会ネットワーク分析の手法を援用してネットワーク構造の分析を行った。また、各企業の成長度合いについての評価指標の代理変数として、各企業のエゴ・ネットワークのサイズの差分を用いた。自動運転車に領域においては、企業を取り巻くエコシステムをどれだけ拡大できるかが、企業の成長性に大きく影響し、各企業の重要な戦略上の目標であると想定されるので、企業の成長度合いの代理変数とした。

各企業のネットワーク指標と成長性との関係を、地域別に分析した結果、ネットワークの広い企業程、成長の速度が速いことが、分析対象の地域にかかわらず確認された。一方で、プラットフォーム型の組織間関係を形成している企業が成長している、という仮説については、測定した指標によっては地域間で差異が確認された。分析の結果、自動運転車の産業領域において、アメリカやヨーロッパでプラットフォーム企業が存在している可能性を示している、また日本や中国ではプラットフォーム企業が成長していない可能性を示された。また、既存の自動車業界においては、凝集性が組織間関係の特徴の1つであり、凝集性の高い企業集団を形成することで、成長性や収益性を高めているが、自動運転車という新しい産業領域においては、凝集性が低いほど成長しているという、従来とは真逆の組織間関係の特徴が示された。以上の分析結果ら、自動運転の産業領域においては、IT業界などと類似して、プラットフォーム・リーダーを中核にした、分散的で、水平分業型の産業構造が主流になっていく可能性も高いのではないかと推察された。

## (3)コネクテッド・カー領域の分析

次に、コネクテッド・カーについて、どのような企業が成長しているのか、その組織間ネットワークの特徴を実証的に分析した。データの収集方法や分析は、前研究と同様で、新聞記事と企業のプレスリリースのデータを利用した。ただし、コネクテッド・カーは多様な部品やソフトウェア等から構成されており、全ての構成要素における組織間関係は、必ずしも様ではないと想定されたため、抽出したデータに基づいて、探索的にいくつかの類型に分類を行い、それぞれについて分析した。抽出された分析対象となる企業数、および企業の組み合わせは、自動車ハードウェアは756社、6,000組、コネクテッド関連機器は765社、6,067組、ソフトウェア・アプリケーションは416社、3,648組、サービス関連は678社、5,430組であった。なお、各類型に含まれる企業数および企業間関係については、各類型間で重複がある。

分析の結果、ネットワークの広い企業程、成長の速度が速いという仮説について、分析対象の類型に関わらず、仮説が指示される可能性が示された。いわゆるプラットフォーム型の組織間関係を形成している企業が成長しているという仮説については、類型間で差異が確認され、ソフトウェア・アプリケーション、コネクテッド機器、サービス関連について、成長性との有意な関係性が観測された。特に、ソフトウェア・アプリケーションについては、プラットフォーム型の組

織間ネットワーク構造であることが、成長性と強く関連していた。一方で、自動車ハードウェアのカテゴリーでは有意な関係性は観測されなかった。さらに、組織間関係の凝集性、近接性に関する仮説について、コネクテッド・カーの4つの構成要素のカテゴリー間で、全く異なる統計分析結果となった。すなわち、自動車ハードウェアのカテゴリーでは、組織間関係の凝集性、近接性が高いほど、企業が成長している可能性が示された。これは従来からの自動車産業の特徴に合致する。一方で、ソフトウェア・アプリケーションやサービス関連のカテゴリーにおいては、逆に、組織間関係の凝集性や近接性とは、負の相関である可能性が示された。また、コネクテッド機器のカテゴリーにおいては、無相関である可能性が示された。このように、コネクテッド・カーの構成要素の中でも、組織間関係は一様ではなく、従来型の垂直統合的な領域と、水平分業化している領域とが併存している可能性がデータから示された。考察として、コネクテッド・カーは、主に従来からの自動車産業としての構成要素と、IT業界の構成要素の組み合わせであり、それぞれの業界構造は階層性があることや、未だコネクテッド・カーが製品ライフサイクルの初期段階にあり、変化が少しずつ進行していることが想定された。

#### (4)シェアリング、電気自動車領域の分析

前述の自動運転、コネクテッド・カー以外に、ライド・シェアリングや電気自動車についても、それぞれ同様の分析を行った。分析の結果、それぞれの技術領域毎に、組織間関係に関することなる特徴が観測された。ライド・シェアリングは、歯医者サービスなどに代表される領域であり、世界の地域間により多少の差異が見られたものの、概ね業界構造の水平分業化が進行していた。一方、電気自動車の領域においては、従来からの自動車産業の特徴である組織間関係の凝集性などは、必ずしも成長性との関係性が観測されなかった一方で、いわゆるプラットフォーム型の組織間関係が主流になっているわけでもなかった。観測された特徴として、電気自動車の主要構成部品ごとに、少数の強いプレイヤーが存在し、それらがいわば強者連合を構成しているようなネットワーク構造が観測された。

以上のように、今日の自動車産業の組織間関係は変化しつつあり、またその変化は技術変化によって一様ではないことが実証的に示された。こうした技術変化は今後も発展することが想定され、それに伴い業界構造や組織間関係もまた変化し続けることが想定される。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Fumihiko Isada	4. 巻 12
2. 論文標題 The Partnership Network Structure of Automakers under Radical Technological Change	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Business Systems Research	6. 最初と最後の頁 95-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fumihiko Isada	4. 巻 IX
2. 論文標題 An Empirical Study on Inter-Organizational Network Structures for Automated Vehicles	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Business and Management	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20472/bm.2021.9.2.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安田弘一, 伊佐田文彦	4. 巻 38
2. 論文標題 IoTビジネスの企業間ネットワーク構造とイノベーションの成果との関係分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本経営システム学会誌	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fumihiko Isada	4. 巻 IX
2. 論文標題 Changes in the International Network of Japanese Electronics Manufacturers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Business and Management	6. 最初と最後の頁 47-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20472/bm.2021.9.1.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本における先端技術関連事業の連携ネットワーク仮説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 37-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藍木秀, 山邊菜々美, 高吉陽奈子, 我那覇葵, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本におけるSDGs の提携ネットワーク構造とその成果	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 321-348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村寿朗, 井上奈々, 遠藤聖奈, 平田あゆり, 前田彩香, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本の電機メーカーのイノベーション・ネットワークと収益性の関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 349-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川野真嗣, 石田奏雅, 佐野真弘, 山崎万里子, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本における介護事業の商圈分析の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 375-400
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 自動運転・コネクテッドカーに関する組織間のネットワーク構造仮説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第二屆 COVID-19的影響下日本與全球政經變遷國際學術研討會 論文集	6. 最初と最後の頁 378-406
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藍木秀, 川野真嗣, 木村のどか, 別處楽, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 地域包括支援センターの業務の可視化と自治体間差	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第二屆 COVID-19的影響下日本與全球政經變遷國際學術研討會 論文集	6. 最初と最後の頁 341-377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐子堯, 張益萍, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本におけるインターネット上の動画関連産業の組織間関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第二屆 COVID-19的影響下日本與全球政經變遷國際學術研討會 論文集	6. 最初と最後の頁 257-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安田弘一, 糟谷尚宏, 白川祐香, 柳澤亜美, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本におけるMaaSビジネスのネットワーク構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第二屆 COVID-19的影響下日本與全球政經變遷國際學術研討會 論文集	6. 最初と最後の頁 229-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村寿朗, 太田愛里咲, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本の電機メーカーの事業戦略と国際立地選択	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第二屆 COVID-19的影響下日本與全球政經變遷國際學術研討會 論文集	6. 最初と最後の頁 212-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川野真嗣, 藍木秀, 木村のどか, 別處楽, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本の介護事業者に関するマーケティング視点の予備的調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第二屆 COVID-19的影響下日本與全球政經變遷國際學術研討會 論文集	6. 最初と最後の頁 190-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山博文, 呂陽, 新本菜々子, 中谷俊介, 伊佐田文彦	4. 巻 1
2. 論文標題 トップメッセージに表れる経営者の傾注と業績指標の探索的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第二屆 COVID-19的影響下日本與全球政經變遷國際學術研討會 論文集	6. 最初と最後の頁 153-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fumihiko Isada	4. 巻 VIII, 2
2. 論文標題 POSITION IN INTER-ORGANIZATIONAL NETWORKS AND PROFITABILITY AND GROWTH POTENTIAL	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Business and Management	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20472/bm.2020.8.2.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 伊佐田文彦, 奥村寿朗	4. 巻 -
2. 論文標題 日系電機メーカーの国際拠点ネットワークの変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第一屆「21世紀日本與全球政經變遷」國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 47-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藍木秀, 川野真嗣, 伊佐田文彦	4. 巻 -
2. 論文標題 地域包括ケアシステムの運用における地域間差	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第一屆「21世紀日本與全球政經變遷」國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 119 - 134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安田弘一, 徐子堯, 袁源, 陸雨靖, 劉夢楠, 伊佐田文彦	4. 巻 -
2. 論文標題 ライドシェアリングの組織間関係に関する中台日比較分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第一屆「21世紀日本與全球政經變遷」國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 323 - 356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吳曦, 伊佐田文彦	4. 巻 -
2. 論文標題 金融業における中日連携ネットワークの変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第一屆「21世紀日本與全球政經變遷」國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 239 - 252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計29件(うち招待講演 0件/うち国際学会 22件)

1. 発表者名 Fumihiko Isada
2. 発表標題 An Empirical Study on Inter-Organizational Network Structures for Automated Vehicles
3. 学会等名 12th Business & Management Virtual Conference, Prague (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fumihiko Isada
2. 発表標題 The Impact of Inter-Organisational Network Structures on Research Outcomes for Artificial Intelligence Technologies
3. 学会等名 12th Business & Management Virtual Conference, Prague (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fumihiko Isada
2. 発表標題 An Empirical Study on Inter-Organisational Network Structures for Connected Cars
3. 学会等名 ENTRENOVA 2021; Enterprise Research Innovation Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呂陽, 伊佐田文彦
2. 発表標題 中国の不動産業界における提携ネットワーク構造
3. 学会等名 日本経営システム学会 第67回全国研究発表大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野真嗣, 伊佐田文彦
2. 発表標題 マーケティング視点からの介護事業
3. 学会等名 第23回日本医療マネジメント学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安田弘一, 伊佐田文彦
2. 発表標題 MaaSビジネスの組織間ネットワーク構造と成長性
3. 学会等名 経営情報学会 2021年度年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本における先端技術関連事業の連携ネットワーク仮説
3. 学会等名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 謝孟軒, 李宗昊, 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本における人工知能関連事業の連携ネットワークの実証研究
3. 学会等名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李宗昊, 池内雅人, 堺拓海, 伊佐田文彦
2. 発表標題 ヘルステック関連事業の連携ネットワークの実証研究
3. 学会等名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藍木秀, 我那霸葵, 山邊菜々美, 高吉陽奈子, 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本におけるSDGs の中心的組織のネットワーク構造と成果
3. 学会等名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥村寿朗, 井上奈々, 平田あゆり, 遠藤聖奈, 前田彩香, 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本の電機メーカーのイノベーション・ネットワークと収益性の関係
3. 学会等名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川野真嗣, 石田泰雅, 山崎万里子, 佐野真弘, 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本における介護施設の商圈分析の試み
3. 学会等名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呂陽, 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本の不動産業界における組織間ネットワーク構造
3. 学会等名 第三屆「後疫情時代下日本與全球政經變遷及影響」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊佐田文彦
2. 発表標題 技術変化とパートナーシップのネットワーク構造との関係 - 自動車業界における実証研究 -
3. 学会等名 2020年度組織学会研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片山 博文, 伊佐田 文彦
2. 発表標題 上場卸売業におけるアナリストカバレッジや経営施策が企業価値に与える影響について
3. 学会等名 日本経済会計学会 第37回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fumihiko Isada
2. 発表標題 Changes in the International Network of Japanese Electronics Manufacturers
3. 学会等名 International Academic Conference, International Institute of Social and Economic Sciences (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fumihiko Isada
2. 発表標題 Position in inter-organizational networks and profitability and growth potential
3. 学会等名 International Academic Conference, International Institute of Social and Economic Sciences (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fumihiko Isada, Yuriko Isada
2. 発表標題 An Empirical Study of the Partnership Network Structure of Automakers under CASE
3. 学会等名 The 6th ENTERprise REsearch InNOVAtion Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安田 弘一, 伊佐田 文彦
2. 発表標題 社会ネットワーク分析によるカーシェアリングビジネスの構造分析
3. 学会等名 日本経営システム学会 第65回全国研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徐 子堯, 伊佐田 文彦
2. 発表標題 中国におけるIT動画産業のネットワーク構造と成長性
3. 学会等名 日本経営システム学会 第65回全国研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥村寿朗, 太田愛里咲, 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本の電機メーカーの事業戦略と国際立地選択
3. 学会等名 第二屆「COVID-19的影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片山博文, 呂陽, 新本菜々子, 中谷俊介, 伊佐田文彦
2. 発表標題 トップメッセージに表れる経営者の傾注と業績指標の探索的研究
3. 学会等名 第二屆「COVID-19的影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藍木秀, 木村のどか, 別處楽, 伊佐田文彦
2. 発表標題 地域包括支援センターの業務の可視化と自治体間差
3. 学会等名 第二屆「COVID-19的影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊佐田文彦
2. 発表標題 自動運転・コネクテッドカーに関する組織間のネットワーク構造仮説
3. 学会等名 第二屆「COVID-19的影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李宗昊, 謝孟軒, 伊佐田文彦
2. 発表標題 自動運転・コネクテッドカーに関する組織間のネットワーク分析結果1
3. 学会等名 第二屆「COVID-19的影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大西由利子, 小笹直人, 北條寛太, 森本利矩, 伊佐田文彦
2. 発表標題 自動運転・コネクテッドカーに関する組織間のネットワーク分析結果2
3. 学会等名 第二屆「COVID-19的影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安田弘一, 糟谷尚宏, 白川祐香, 柳澤亜美, 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本におけるMaaSビジネスのネットワーク構造
3. 学会等名 第二屆「COVID-19的影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川野真嗣, 木村のどか, 別處楽, 伊佐田文彦
2. 発表標題 介護事業者に関するマーケティング視点の予備的調査
3. 学会等名 第二屆「COVID-19的影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 徐子堯, 張益萍, 伊佐田文彦
2. 発表標題 日本におけるインターネット上の動画関連産業の組織間関係
3. 学会等名 第二屆「COVID-19の影響下日本與全球政經變遷」國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------